

N P O（特定非営利活動法人） 2 1 世紀水俱樂部

平成 2 1 年度年報

自平成 21 年 4 月 1 日 至平成 22 年 3 月 31 日

平成 22 年 7 月 2 1 世紀水俱樂部

## 目 次

序文（清水副理事長）	・・・1
1. 当会（NPO）をめぐる外部環境の動向と活動の概況	・・・3
1.1 外部環境の動向	・・・3
1.2 活動グループの活動概況	・・・5
1.2.1 「普及と広報」担当グループの活動概況	・・・5
1.2.2 「IT」担当グループの活動概況	・・・7
1.2.3 ディスポーザー分科会活動概況	・・・8
1.2.4 活動成果出版編集委員会活動概況	・・・9
1.2.5 HP 上での活動概況	・・・9
2.1 シンポジウムの開催	・・・10
2.1.1 シンポジウム「排水の消毒」	・・・10
2.1.2 研究集会「下水道の海外展開キーポイント」	・・・11
2.1.3 研究集会「下水道と地域社会」	・・・12
2.1.4 秋の研究集会Ⅱ「湖沼水質の保全と下水道一諏訪湖の事例より」	・・・14
2.1.5 下水道管路シンポジウム「新下水収集システムを考える」	・・・15
2.2 干潟見学会	・・・16
2.3 出前講座	・・・17
2.3.1 「列車トイレー日本の列車トイレの変遷」し尿・下水研究会	・・・17
2.3.2 「将来の下水道展望」三浦半島地域下水道連絡協議会	・・・17
2.3.3 「下水道と合併浄化槽」荒川左岸南部実務者研修会	・・・18
3. 平成 21 年度末会員等の現況	・・・18
4. 平成 21 年度決算報告の概要	・・・18
資料編（平成 22 年 6 月 25 日通常総会資料）	・・・19

序文：

副理事長 清水 洽

2025年には、日本のGNPは7位にまで落ち、世界であつてもなくても良い国になるという予想があります。EU、米国、中国、インド、ブラジル、インドネシア、次に日本です。4月30日夜の上海万博開会式には世界各国の首脳約20名が参加し、経済成長著しい大市場の中国市場への進出をもくろんでいます。フランスのサルコジ大統領はアランドロンと仏企業を引き連れ上海万博に乗り込みました。一方、日本の総理は鳩真似のパフォーマンスで幼稚園児と遊んでいました。こんなことでいいのでしょうか？

鎖国から目覚めた明治維新、太平洋戦争の敗戦から立ち直り、われわれの先輩達の血をはくような努力と苦勞で世界に誇る日本を作り上げてきました。当然、昨年の自民党政権から民主党政権への変革は平成の無血大革命と期待しましたが、事業仕分けのパフォーマンスだけで、本来の日本を何処へ導くかさっぱり判りません。NHKテレビでは坂本龍馬や「坂の上の雲」の明治の青春を謳う番組が視聴率を高め、国民は自分の私欲を捨て、国に尽くした英雄にあこがれています。

世界から見れば国家は1つの大きな企業体です。内需の拡大だけでなく海外から仕事を持ち込む必要があります。資源を持たず、高い労働力になった日本の生き残る道は、安心安全な国として観光立国で人を集めるか、iPS細胞等の先端技術で売り込むか、安くて精度が高く故障しない製品を作る世界の工場になるか——考えねばなりません。

そこで現実のわれわれの分野を見てみますと、昨年は国家のインフラ整備の一環として国土交通省がリーダーとして進めていた下水事業が地方自治体に移管されることになりました。確かに、下水道施設が整備され、運転と維持管理、プラント補修等の業務は各都市運営に任すべきでしょうが、都市の整備としての合流下水の改善や、広域にわたる都市下水道の洪水浸水対策、さらに河川や湖沼、閉鎖海域の水質保全を考えると、各都市のばらばらな発想でいいのでしょうか？財政の乏しい地方都市ではお金は下水道事業には回らないでしょう。強いリーダーシップが必要と考えられます。

私が思い出すのは、昭和60年度より始まった建設省土木研究所を中心にした、総合技術開発プロジェクト「バイオテクノロジーを活用した新下水道システムの開発(バイオフォーカス WT)」です。プラントメーカーからゼネコンまで28社と産官学の総力を結集した、国の強いリーダーシップによるプロジェクトでした。ここから膜活性汚泥法や嫌気好気法、包括担体などによる下水の高度処理や、嫌気性発酵によるエネルギー回収など、現在活用されている技術の元が出来上がりました。私もこのプロジェクトの中で下水汚泥はエネルギー源だとの発想で、下水汚泥熱変性によるエネルギー回収の提案をした思い出があります。今われわれに必要なのはこのようなパワーある発想の転換が必要ではないのでしょうか？

財源の乏しい中、環境、エネルギー、地球温暖化対策等キーワードの元、新たな発想が必要ではないでしょうか？

元気がない下水道関係者に発破をかけたい思いがいっぱいです。今、廃棄物が資源として活用される時代です。下水道事業は大きな雇用があり、処理場がある限り仕事はなくなりません。下水道の管渠はディスポーザーを用いれば生ごみの輸送手段となりますし、処理場用地や施設等は公園だけでなく、ソーラーシステムの活用場所になります。また、水と言う大きな資源を持っており、これを活用し再生することにより新たな事業を起こすことができます。下水処理から発生する汚泥は高いエネルギーを持っており、汚泥からリンや重金属また金までも回収することができます。

NP021 世紀水倶楽部では研修集会や「21世紀水倶楽部だより」などを通じていろいろな下水道の役割や下水の活用方法などを提案していきたいと思っています。皆様の活躍の場としてご活用ください。

私事ですが私が「下水道なんでも」のホームページに発表した「列車トイレ」シリーズが昨年12月から月刊誌 {都市と廃棄物} に5回にわたり掲載されました。

## 1. 当会(NPO)をめぐる外部環境の動向と活動の概況

### 1.1 外部環境の動向

2009 年度における水環境事業を取り巻く外部環境は、前年度に引き続き厳しいものとなった。景気の低迷が続いたのに加え、政治体制が安定せず、特に年度前半は出口が見えない状況だった。年度後半には景気にやや明るい兆しが出てきたが、昨年9月に発足した新政権が米軍基地移設問題などで足踏みを繰り返し、トヨタがアクセルペダルの不具合から米国でリコール問題を起こすなど、わが国の政治・経済はいまだ確かな足取りには至っていない。

そうした2009年度の外部環境の中から、水環境事業に大きな影響を与えたと思われる政治体制の変化、事業仕分けと2010年度予算、新型インフルエンザの3項目について報告する。

#### (1) 政治体制の変化

2009年8月30日、第45回衆議院総選挙が執行され、民主党が選挙前を大幅に上回る308議席を獲得し、結党11年目にして衆議院第一党となった。逆に自由民主党は、公示前議席より181議席減らして119議席にとどまり、1955年結党以来衆議院第一党を失った。この結果を受けて、第172国会では鳩山由紀夫民主党代表を首相とする、民主党中心の新政権が発足した。

民主党は総選挙に臨み、①ムダづかい、②子育て・教育、③年金・医療、④地域主権、⑤雇用・経済——の5つを柱とする約束をマニフェストとして掲げたことから、新政権発足後は、これに基づいて八ツ場ダム事業中止をはじめとする公共事業の縮減や子ども手当での創設などを行った。

また、新政権は政権の歴史的な使命として「新成長戦略（基本方針）～輝きのある日本へ～」を打ち出し、強みを活かす成長分野（環境・エネルギー、健康）、フロンティアの開拓による成長分野（アジア、観光・地域活性化）、成長を支えるプラットフォーム（科学・技術、雇用・人材）を新成長戦略として、主な施策を中心に方向性を明確にした。

なかでも、2020年までの目標として「50兆円超の環境関連新規市場」「140万人の環境分野の新規雇用」「日本の民間ベースの技術を活かした世界の温室効果ガス削減量を13億トン以上とすることを目標とする」を掲げた環境・エネルギー分野については特に力を入れており、鳩山首相は9月22日、国連本部で開催された国連気候変動ハイレベル会合で演説し、2020年までに温室効果ガスを1990年比で25%削減するとの日本の中期目標を表明、条件付きながら国際公約とした。

#### (2) 事業仕分けと2010年度予算

新政権は、国民的な観点から、国の予算、制度その他国の行政全般の在り方を刷新する

とともに、国、地方公共団体および民間の役割の在り方の見直しを行うため、内閣府に「行政刷新会議」を設置し、この行政刷新会議のもとで11月、2010年度要求の「ムダ」を洗い出すために「事業仕分け」を行った。

事業仕分けの評価基準は、①事業が必要か、②国が担わないといけないか、③来年度予算に盛り込むべきか、④事業内容や組織、制度などに改革の余地はあるか、⑤予算額は妥当か——の5項目で、対象に選ばれた国の447事業が約200項目に整理され、仕分けられた。

この事業仕分けは公開で、テレビやインターネットで放映されたことから、大きな話題となり、仕分けの実施について肯定的な評価が寄せられる一方で、「公開処刑のようだ」「国民の歓心目当ての愚策」などといった評価も寄せられた。

その中で主要な水環境事業である下水道事業は、補助金が“縛り”となってコストの高い公共下水道が選択されているなどの意見が評価委員から相次ぎ、最終的に「財源を地方に移し、自治体に汚水処理手法の判断を任せる環境を整えるべき」と判定された。

事業仕分けによる見直し結果を受け、新政権初の2010年度予算が会計年度内に成立したが、公共事業予算は大幅に縮減されたものの、一般会計総額は過去最高の92兆円、新規国債の発行も過去最高の44兆円となった。下水道事業は、従来の補助金が廃止され、社会資本整備総合交付金となった。

### (3) 新型インフルエンザ

2009年春頃から2010年3月にかけて、A型、H1N1亜型というウイルスによるインフルエンザが世界的に流行した。2009年4月にメキシコでの流行が認知され、同年6月世界保健機関（WHO）は、世界的流行病（パンデミック）であることを宣言した。

この流行が大きな問題となったのは、流行初期にメキシコにおける感染死亡率が極めて高いと報道されたため。日本では当初、「新型インフルエンザ等感染症」の一つに該当すると見なされ、感染者は強制入院の対象となった。

厚生労働省は、新型インフルエンザが「スペインかぜ」並みに流行し、60日間続いた場合の被害を最大で全人口の25%、3,200万人が感染し、このうち2,500万人が病院で受診し、200万人が入院、死者は64万人と予測した。

2009年6月19日に厚生労働省が方針を変更して以後はこの扱いがなくなり、季節性インフルエンザとほぼ同様の扱いとなった。しかし、新型インフルエンザは、10年から40年の周期で出現し、世界的に大きな流行を引き起こしており、我々は今回の新型インフルエンザの流行を教訓としていかなければならない。

## 1.2 活動グループの活動概況

### 1.2.1 「普及と広報」担当グループの活動概況

研究集会などの企画、HP列車とトイレ海外編、仮称「思い出の記」などを中心に作業を行った。打ち合わせは4月から8回実施。

#### ○ HPの拡充

HPに載せたものは以下の通り

#### \* 1, 列車とトイレーベルギー・オランダ編 7月

高速のタリスは真空式、ベルギーの在来線は一部貯留タンクが

#### \* 2, インドトイレ事情 7月

寝台車トイレではひしゃくによる水洗。蛇口があつておしりを洗うように。

#### \* 3, 列車とトイレ\*1ーモロッコ編 9月

鉄道はあまり普及していない

#### \* 4, 列車トイレの製作ー五光製作所 11月

列車トイレ製作を一手引き受け、バスや船舶トイレも。輸出もしている

#### \* 5, 列車とトイレー中国編 2

新幹線のトイレ

#### \* 6, 列車とトイレーチュニジア編 2010/2月

観光列車レザールージュ（赤いトカゲ）は崖崩れのため運行停止

#### \* 7, リンク先の更新

下水道なんでも、家庭排水とその処理いろいろ、で実施。1年の間にURL変更の箇所が多く、消滅しているものもあった。

今後ともテーマの趣旨を考え、興味を持たれる情報提供に務めていきたい。

#### ○仮称「思い出の記」事業の推進

時の流れによって次第に過去に埋もれていく事業や人をできるだけ残していこうということではじめたもの。広く原稿を募集し、情報を得て、内容の拡充を図っていく。

内容は、1, 直接執筆したもの 2, 事業体下水道史など既発行図書のリスト化 3, 雑誌などに掲載されたプロジェクト経緯などの資料収集 から構成されている。この事業の運営については準備委員会をつくり必要に応じて方向付けを協議することとしている。

今年度から新たに「思い出の写真館」の試行版をはじめている。工事や作業の写真、記念の写真など載せていく予定。

#### \* 1, 思い出

下水道に関連したプロジェクト（事業化、用地折衝、計画、設計、工事、改良、技術開発、研究、制度化）などの思い出、記録などを募集。

## \* 2, 事業の記録

各地でまとめられた下水道に関連した歴史、事業報告をリスト化。また概要の紹介を行う。

本文は国会図書館での閲覧を原則にし、国会図書館で検索したものから載せ、範囲を広げている。

## \* 3, 関連資料

プロジェクトの経緯などの資料、雑誌などから収集

## \* 4, 思い出の写真館

とりあえず会員に呼びかけを行った。写真提供は少なかったが、今後広く募集していきたい。写真の提供と説明を頂いただけなので、収集が速やかに進み、沢山の収蔵ができることを期待している。

## ○HPー都市排水・生活排水処理の実態・課題を考えるー

22年度予算編成にあたり、仕分け作業が大々的に報道され、そのなかで、都市排水・生活排水処理の実態が国会議員に良く伝わっていないことが明らかになった。生活排水処理事業を進めて行くにあたり、仕分け作業では下水道と浄化槽の対峙の質問や意見に終始したようである。本来地方公共団体が事業主体である下水道事業の実施を「公共団体にまかせる」など、一方的に方向を打ち出すようなこととなっている。

実際には水環境・生活環境の改善のため、地方公共団体が下水道、集落排水、浄化槽を地域の状況に合わせて整備計画を作って整備しているもので、平成10年までに全国で策定が終わり、以降適宜改訂されてきている。

21世紀水倶楽部では、床下、道路下にあって見えにくく、わかりにくいこの問題について情報を発信して行くこととした。

内容は

### 1, 資料ー下水道の役割、機能の正しい理解のために

チームで制作

### 2, 会員の意見

21世紀水倶楽部会員の意見

### 3, 各界の声

公共団体首長、学識経験者、評論家、新聞社、公益法人などの掲載された声を集めています。

## ○資料・研究会報告

・シンポジウム「排水の消毒」H21.6.9(火) 14:00から 参加者50名

・研究集会「下水道の海外展開キーポイント」 H21.7.7(火) 14:30から 参加者56名

- ・盤洲干潟見学会 H21. 7. 25(土) 参加者 9 名
- ・研究集会「下水道と地域社会」H21. 9. 3(木) 13 : 30 から 日本下水文化研究会関西支部、びわこ・水ネット、下水道と水環境を考える会・水澄との共催。大阪下水道科学館で開催 参加者 100 名
- ・秋の研究集会「湖沼水質の保全と下水道」H21. 10. 20 (火) 14 : 00 から 参加者 40 名

## 1. 2. 2 「IT」担当グループの活動概況

### ○活動概況

総務省統計資料によると、平成 20 年末のインターネット利用者数は 9 千万人を超えている。人口の 75% に普及していることになり、上限値に近い水準に達している。高速で安定した通信環境の整備に伴い、クラウドが注目を浴び今後の急速な導入が予測されている。

クラウドコンピューティングは、ユーザーが個別のサーバーやソフトを持たずインターネットを介して必要に応じてデータやアプリケーションを利用する方式で、製造業を中心に普及してきているが、公共機関においても経済産業省や広島県で一部導入されている。通信が高速安定な状態であれば、ハードやソフトは専門の企業が一括して構築し管理することにより、常に最新技術のサービスを低コストで提供することができる。

上下水道施設の管理へのクラウド適用は、広域的な管理や民間活用業務の拡大と併行して検討されることが予想される。

平成 21 年度の IT グループ活動は、担当者の能力不足により会員内外の期待に応えられず低調であった。情報発信の不足、セミナー等会員希望の調査や講師の選定などの準備不足を反省材料として、来年度の活動を再検討したい。

### ○今後の展望

上下水道事業への IT 活用は、IT の進歩と普及に追従しており、民間事業や国の直轄事業に比べ多少の時差はあるものの確実に進行しているように思える。浄水場や処理場での計測、監視、制御には専用線や会社線による光通信が普及し、データ通信システムの標準化の動きも始まっている。

当活動グループの設立時には下水道光ファイバー通信や光センシングなど上下水道設計や建設に直接関わるテーマがあり、情報提供活動を実施してきたが、最近では道路情報ボックス等の公的設備のほか民間通信設備の整備水準が高まり、下水道施設を活用した情報通信の需要は著しく低下している。

防災やストックマネジメントに関しては、地図情報や管理情報を含むデータベース構築とその通信や公開システムなどの IT 需要は今後増加することが見込まれる。

今後のグループ活動では、IT の利用目的を限定せず便利で面白いシステムや機器について、広範囲でホットな情報をホームページや広報資料により紹介し、上下水道事業関係者への関心を高めるよう努める。

### 1. 2. 3 ディスポーザー分科会活動概況

ディスポーザー分科会では、下水道の新たな役割として直投型ディスポーザーによる厨房の清潔化を提案し、普及活動を行っている。平成 21 年度の活動を以下に報告する。

#### 1) 分科会の開催状況（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

- 第 1 回会合 平成 21 年 4 月 15 日
- 第 2 回会合 平成 21 年 10 月 15 日
- 第 3 回会合 平成 21 年 12 月 21 日
- 第 4 回会合 平成 22 年 2 月 4 日
- 第 5 回会合 平成 22 年 3 月 31 日

#### 2) 審議内容

北海道歌登町（現・枝幸町）での国総研の社会実験を受け、下水道システムへの直投型ディスポーザーの導入が、一定条件化ではあるが、容認されて数年を経過した。平成 21 年の第 1～3 回の分科会では、北海道滝川市、群馬県伊勢崎市、富山県黒部市等においてディスポーザーの普及が遅々として進まない状況の分析を行った。その結果として次の要因が考えられた。

- ① ディスポーザーの利便性の認知度が低い
- ② 下水道に関与する大部分の職員には「生活の質の向上」に資することが自分の職責であるという意識が低い。したがって、雨水、汚水の速やかな排除と処理に直接に関係する事柄以外のものには消極的になりがちである。
- ③ 当分科会の活動方針として「生活の利便性の向上と下水道システムへの負荷の解明」視点をおいていたが、「資源として活用する」視点から活動方針を見直す必要がある。
- ④ ディスポーザーの流通のあり方、設置後のアフターケアのシステムを検討することが必要である。
- ⑤ とくに通販・訪問販売等による悪徳商法に類する事例が過去にあったことも住民の警戒心を呼び起こすかもしれない。
- ⑥ ディスポーザーの機器の価格が高いことも普及を妨げる要因である。

第 4, 5 回会合ではこれらの諸要因に着目して次回のセミナーを開催することとした。

#### 1.2.4 活動成果出版編集委員会活動概況 (21世紀水倶楽部だより)

活動成果を編集・(自費)出版・配布することにより、当 NPO の関係方面への PR、あるいは、「科学的知識に基づいた正しい情報を全国に発信」(会の目的)することは長期の目標とし、とりあえずの活動としては次のような議論が進んでいた(19年度末まで)。

- ・編集委員会のねらいとする一般配布書籍の議論とは別に A4 数ページプリント手作りの「21世紀水倶楽部だより(仮称)」のようなものを考えてはどうか。
- ・インターネットホームページでの広報の弱点を補う意味で、この紙媒体の情報の価値がある。
- ・ワードあるいは pdf ファイルで会員+過去の事業参加者(アドレスあり)にメール添付配布し、プリントは各自で願います。そうすれば印刷費と郵送費はかからず、費用ゼロとなる。(一般配布は今後の課題となる)

#### ○「21世紀水倶楽部だより」発行の経緯

- ・前年度まで第5号(通算6回)を発行、21年度は第6号から11号まで、5,7,9,11,22年1月の結果的に奇数月に発行(計6回)した。
- ・メール添付の pdf ファイルでの配布は、正会員と賛助会員あてのほか、非会員の行事参加者にも BCC で配布した。非会員配布数は各号毎に増加し、最終では 258 名(22.4 現在)に達している。
- ・記事の種類では、巻頭文(理事が交代で執筆)、活動報告、会員だより(第4号より)、お知らせ、編集幹事のあと整理、の構成になっている。
- ・「たより」発行のための編集委員会の委員は会員間で公募している。とりあえずは理事懇メンバーに委員をお願いし、毎月の理事懇の後半の時間で編集委員会を開催している。とりまとめは編集幹事の望月が行っている。

#### 1.2.5 HP上での活動概況

ホームページ上での会員活動は、最近の NPO 活動の主流となっている。また、当会の特性でもある遠隔地の会員にとっては、会員会合などへの参加が不便なので、そのかわりとして HP 活動は利便を担保するものとなっている。

会の発足当初から以上のことに留意し、①会員個人 HP へのリンク、②会員論文図書館(投稿スペース)、③正論広場(掲示板)、④会員活動への招待コーナーなどを用意している。

- ①の個人 HP は亀田泰武、深堀政喜、望月倫也の三会員分をリンク。(前年より増加なし)
- ②の会員論文図書館は、今年度の投稿はなく、累計 24 編は変わらない。(ほかに論文図書館特別バージョンの「三位一体改革への意見」と「集中と分散の議論」がある)

- ③ の「正論広場」掲示板での投稿・意見交換はほとんどなかった。会員の皆様の高度の利用を期待する。(会員外でも利用可)
- ④ 会員活動への招待は計 11 活動のラインアップとなっている。(22 年度に入り、「みずなぐプロジェクト」が 5 月に加わった)
- ⑤ 「都市排水・生活排水処理の実態・課題を考える」ページのリンク。内容の説明は本年報**1.2.1**を参照してください。

## 2.1 シンポジウムの開催

### 2.1.1 シンポジウム「排水の消毒」2009.6.9

#### 1 開催趣旨

下水処理水の消毒は古くから行われているが、最近では再生水の消毒や雨天時下水の消毒が実施されている。特に、雨天時下水については、平成 14 年から 16 年にかけて国土交通省が実施した SPIRIT21 プロジェクトが契機となり実施での採用が増えてきている。また、最近、国内外で排水処理に MBR あるいは (MBR + RO) の適用とその処理水の再利用に大きな関心が集まっており、再利用の際の消毒技術が注目されている。

消毒剤としては塩素が主体であるが、オゾン、紫外線、二酸化塩素等の使用も進んでいる。また、消毒メカニズム、消毒効果、放流先への影響等に関する解明も進歩している。本シンポジウムでは、排水の消毒についての最近の動向や進歩、さらに今後の方向についてご講演をいただき、意見交換を行った。

2 日時 平成 21 年 6 月 9 日 (火) 14:00~17:00

3 会場 (財) 下水道新技術推進機構 会議室

#### 4 プログラム

##### (1) 講演

- ・ 最近の消毒技術の進歩 日本下水道事業団技術開発部総括主任研究員 橋本敏一氏
- ・ 雨天時下水の消毒 東京都下水道局計画調整部技術開発課新技術企画担当係長 代田吉岳氏
- ・ 再生水の消毒 名古屋市上下水道局施設部水質管理課長 河合利泰氏

講演では、消毒と殺菌と滅菌の違いの話、消毒の対象となる病原性微生物やその指標微生物の話、病原性微生物に対する消毒メカニズム等についての話から始まった。下水処理水の塩素消毒は古くから行われているが、最近では雨天時下水や再生水の消毒に紫外線、オゾン、臭素剤などの消毒剤を用いている事例が興味深く紹介された。また、国内外で採用が増えてきている MBR の処理水消毒の考え方の紹介もあった。

##### (2) 総合討論 (司会 渡部春樹)

総合討論では、現状では塩素に代わる安価で効果的な消毒剤はないこと、消毒は安全弁であり日常的な生物処理-沈殿処理等の運転管理が重要であること、塩素注入量はできるだけ少なくするような管理が重要であること、リスク許容度によって消毒レベルが変わること等が話し合われた。

5 参加者 約 50 名

## 2.1.2 研究集会「下水道の海外展開キーポイント」2009.7.7

下水道新技術推進機構会議室 14時30分から

### 1. 趣旨

水に関わる地球規模での問題解決やわが国の水・食料の安全保障の観点から、「下水道グローバルセンター（GCUS）が発足した。また、GCUS の設立も相まって、下水道界における海外協力活動や海外ビジネスの機運も高まっている。2009年1月には、わが国の優れた技術・ノウハウを結集するオールジャパン体制組織「有限責任事業組合 海外水循環システム協議会」の設立も発表された。

このように海外協力活動や海外展開の体制は整備されつつあるが、個別の案件については具体的に何が問題となるのか、またそれを克服していくためには何が求められるかなど、未知の要素も少なくない。

そこで、2009年4月に発足したGCUSが今後どのような役割を果たしていくのか、また、今後の海外展開におけるキーポイントを、過去の事例から抽出し、それを踏まえて議論を進める。

### 2. プログラム

#### ○講演

#### 1. 動き出した下水道グローバルセンター、取り組みと展望

下水道グローバルセンター 事務局長 佐伯 謹吾 氏

#### 2. 海外水循環システム協議会の取り組みと海外展開の重要ポイント

有限責任事業組合 海外水循環システム協議会 運営委員長 伊藤 真実 氏

#### 3. 海外展開におけるコンサルの役割 ―事例を踏まえて―

株式会社 エヌジェーエス・コンサルタンツ 代表取締役社長 竹内 正善 氏

#### ○総合討論

コーディネーター：日本下水道事業団 堀江 信之 氏

### 3. 参加人数 51名（講師・コーディネーター等5名除く）

### 4. 終わって

海外展開の機運だけが盛り上がり、海外展開を行う上での問題点などが曖昧だった状況

の中で、講演者による最新情報等の講演とともに、活発な総合討論が行われた。特に総合討論では、過去に ODA で建設されたものの今は停止している海外施設の運営に関する議論や、海外展開におけるコンサルおよび日本の問題点など、より突っ込んだ話し合いが持たれた。このような、より活発で、より突っ込んだ議論は、NPO 主催という性格を色濃く反映したものと思われる。

### 2. 1. 3 研究集会「下水道と地域社会」2009. 9. 3 大阪開催

#### ●開催趣旨：下水道と地域社会～地域とつなぐ下水道～

下水道は住宅のみならず市役所、学校などの公共施設や飲食店、事業所、工場など、地域のあらゆる建物等と密接につながっているのですが、多くの人達は下水道をどのように意識しているのでしょうか。流してしまった先の下水が見えないことや大部分の施設が地中にあることなどから、残念ながら下水道が日々の家庭生活や地域の社会経済活動を支えている重要な施設であるという認識は少ないのではないのでしょうか。

まず、「見える下水道」とし、下水道の役割、現状、財政などについて広く理解いただくことが必要です。もし、下水道がなかったら暮らしや街がどうなるかを考えていただくことも有効です。そして次に、下水道を自分達のものにとらえ、どのように関わったら、暮らしや街・地域がもっと良くなるのかを考えていただくことも大切だと思います。

そこで、一般市民と下水道関係者が一同に会し、下水道と地域の関りについて先進的な取り組みを行っている各地の事例をご紹介いただき、下水道を地域社会に活かしていくためには、下水道管理者と市民がどう協調していけばよいのかなどについて討論を進めていきたいと考えます。そして、こうした議論と取り組みを全国各地に広げていきたいと思えます。

日時：平成21年9月3日（木） 13時30分～16時30分

場所：大阪市下水道科学館

主催：21世紀水倶楽部、日本下水文化研究会関西支部、びわこ・水ネット、下水道と水環境を考える会・水澄（4者共催）

後援：国交省、大阪府、兵庫県、滋賀県、千葉市、大阪市、神戸市、八尾市

協賛：大阪市下水道技術協会

#### ●プログラム

##### ○事例発表

- ① 千葉市こてはし台調整池（都市の中の水辺づくり～子ども達の夢をみんなに）：協議会長・立本英機さん、こてはし台自治会長・奥原喬夫さん
- ② 「松本のまちづくり（せせらぎ水路の新設と管理を通して）」：神戸まちづくり協議

会連絡会事務局長・松本地区まちづくり協議会会長・中島克元さん

③ 「見える川と見えない川」：アクアフレンズ代表・美濃原弥恵さん（八尾市）

○総合討論（コーディネーター：21世紀水倶楽部理事 栗原秀人）

・討論に先立ち、パネリストの発表（今回の主旨に沿ったものを話題提供、各10分）

- ① 日本下水文化研究会関西支部
- ② びわこ・水ネット
- ③ 下水道と水環境を考える会・水澄
- ④ 国土交通省下水道企画課・本田康秀課長補佐

・討論

- ① 下水道が見えているか（誰に、何が見えていないか。）
- ② 下水道で何ができるか（暮らしに、街に、水に、地球にどう活かせるか。）
- ③ どうしたら協働できるか、継続できるか（市民の役割、管理者の役割。）
- ④ これからの夢は

○本日のまとめ

下水道と地域社会=つなぐ！

① 暮らし・川・街と下水道をつなぐ！

自分たち・地域の下水道、（水に対する）排出者と受益者、なかったらどうする

② 分野をつなぐ！

街づくり・川・環境・健康・循環・生態等々多くの分野

③ 人をつなぐ！

行政－民間－市民－学校、あらゆる分野の人々

④ 地域をつなぐ！

上流－下流、左右岸、都市－農山村

⑤ 世代（時代）をつなぐ！

おじいちゃんと孫、お年寄りと小学生、昔・今・未来

⑥ 皆でつなぐ！

場づくりと人づくり、ネットワーク、継続、面白い

本日の研究集会は、下水道と地域社会の「つなぐ」の第一歩です。今日の輪がもっとももっとつなげていけたらいいと思っております。まとめには「つなぐ」が6項目ですが、7番目、8番目の「つなぐ」を考えいただくことをお願い申し上げ、総合討論を閉じることに。

●終わって

住民との協働を狙った企画の第二弾である。NPO活動が動き出している関西地域の各

NPO団体との共催となり、下打ち合わせも何回か行われた。今後これまでの活動を生かし、この催しを定例化して一層、発展させ、地域住民と協働して、望ましい街づくり、水環境の創造活動が盛んになるようにしていきたい。

#### 2. 1. 4 秋の研究集会Ⅱ「湖沼水質の保全と下水道－諏訪湖の事例より」2009. 10. 20

・日時：平成 21 年 10 月 20 日（火）

・場所：（財）下水道新技術推進機構会議室

・開催主旨：

諏訪湖の水質、水環境回復に対して諏訪湖流域下水道が果たしてきた役割は大きいものと考えられる。本研究集会では、下水道整備の進捗と湖の水質、生態系の改善がどのようにリンクしてきたかを改めて確認することとし、湖沼の水質改善の特性についてみてみる。また、下水道により制御できる点源負荷とその他の面源負荷の寄与についてもデータを見ていくこととし、諏訪湖の事例と他の主要な湖沼とで、水質改善にどのような差異があるのかについての議論も紹介いただく。

・プログラム：

14:00 開会、主催者挨拶

14:10-14:40 諏訪湖の水質保全と流域下水道事業の進捗

長野県地球温暖化防止活動推進センター事務局長 青柳光昭  
（前長野県環境部生活排水課長）

14:40-15:10 諏訪湖流域下水道が変えた諏訪湖の生態系

信州大学山岳科学総合研究所教授 花里孝幸

15:10-15:40 諏訪湖の実例と他の湖沼との比較

筑波大学大学院生命環境科学研究科教授 福島武彦

16:00-17:00 総合討議（司会 本会会員 佐藤和明）

・参加人数： 40 名（内訳 会員 23, 国、公共団体等 10, 民間 7）

・所感：

諏訪湖流域下水道は、昭和 54 年供用開始されると、流域管内の下水道普及率は急速な伸びを示し、現在では 97.6%（平成 20 年）のレベルまで達している。青柳氏により総合討議でも紹介されたが、流域住民が諏訪湖の水質保全に積極的で下水道事業に十分な理解を示していたのがその要因となっているようだ。

一方、花里先生は、諏訪湖の水質が平成 11 年を契機に大きく変わったと報告している。アオコが優先していた湖の透明度が突然上がり、沈水植物が大きく繁茂し始めた。これは生態系のレジームシフト（相転移）とも言うべき現象で、湖の水質改善はこのよう

経過を辿ることも珍しくないようだ。

福島先生からは、湖沼の面積ならびに深さによって流域負荷対策の効果が出やすい、出にくいといった特性があることが紹介された。とくに霞ヶ浦は、生活排水対策が諏訪湖ほど一律にうまくいっていないうえに、農地や畜産からの面源負荷が大きいので、なお時間が掛かるかも知れないという紹介があった。

今回、諏訪湖の浄化が、とくに流域下水道事業の完成とともに成就したことは、今後の湖沼、内湾の富栄養化対策に対し確固とした道標になったのではないかと考える。

## 2. 1. 5 下水道管路シンポジウム「新下水収集システムを考える」2010. 1. 30

### 1. 趣旨

西暦 1884 年、神田下水道に始まったわが国の下水道建設は、ほぼ 120 年の歳月が経過し、下水道管路敷設延長が 2009 年実績で約 41 万 Km に達しています。普及拡大に伴って、ストックの増加している下水道管路の機能を健全に保つと共に、耐震化や新たなニーズに対応し、既存システムの課題を改築・更新時に解消していくことが求められます。

このような背景のもと、今回のシンポジウムでは、下水道管路を主人公として、改築・更新期を迎える既存システムの課題を 5 つの視点で整理し、経済性や維持管理性等を踏まえて問題解消の方向性として、「新下水道収集システム研究会」より斬新な提言を、また実際の現場等のエキスパートよりご講演をいただき、その後、参加者 62 名とフリートークを行い、下水道管路施設の課題を議論しました。

2. 日 時：平成 22 年 1 月 30 日（金）、15：00～17：00

3. 会 場：（財）下水道新技術推進機構会議室

### 4. プログラム

(1) 管路施設の問題点（今、何故新収集システムなのか）

講師：（社）日本下水道管路管理業協会 会長

新下水道収集システム研究会 会長

長谷川 健司

(2) 維持管理の現場から見た管理施設

講師：（社）日本下水道管路管理業協会 伊藤 岩雄

(3) 新下水収集システムの提言

講師：新下水道収集システム研究会 幹事 西村 秀士

### 5. 内容・全体討議

司会：NPO 法人 21 世紀水倶楽部 会員 山崎 義広

- ・ 今回新下水道収集システムとして提案されたのは、現有施設の評価を、「住民の安全性、利便性」、「維持管理作業の安全性、容易性、確実性」、「機能を改善しつつコスト削減を図る」、「環境への影響を改善する」、「施設を長持ちさせる将来の変化への対応を容易にする」という5つの視点から、現有施設の課題、改善策等を整理し8つの解決策を紹介されました。
- ・ 8つの解決策とは、①維持管理基準の策定とメリハリのある維持管理計画の策定、②エコ宅内排水、③取付管のマンホール接続、④マンホールの機能分類、⑤安全性の視点での対応、⑥規格の見直しによるコスト削減、⑦空気の道、⑧高度機能化、付加価値の8つです。
- ・ 下水管では、空気（換気）が大切で、研究会が提案された空気の道は、エアチャンパーと言って、米国のマニュアルにも書かれており、このエアチャンパーがないため伏せ越し上流部で腐食が多く見られるという紹介もありました。
- ・ 横引きマス方式においては、賛成であるという意見と不要であるという意見もありました。
- ・ 不明水問題の解決策の一つとして、排水ヘッダーの設置や、水ビジネスとして今回の技術提案を海外へ発信し普及させてはといった意見もありました。
- ・ 最後に新下水道収集システム研究会より、異論や意見などがあれば遠慮せずどしどし出していただき、研究会として前向きに協議・検討して行きたいとの前向きなコメントが発せられました。

## 6. 終わって

今回のシンポジウムを通して、下水道管路システムの問題点などの背景や改善の進路が明確に見えてきたのではないかと思います。

今回のシンポジウムの講演内容は、NPO21世紀水倶楽部ホームページで参照できます。

## 7. 参加者：62名

### 2.2 干潟見学会 2009.7.25

盤州干潟の第2回の見学会でした。2006年にアサリだらけだった盤州干潟南端の木更津海岸がどうなっているか、大潮である7/25に計画し、9人参加。

天気予報では曇りでしたが、薄曇りで太陽光の力が強く、参加者に顔や手、首筋の日焼け対策は徹底しましたが、足に気が付かず、けっこう赤くなって風呂でお湯につかった時少し痛い思いを。南西風が非常に強く潮が引くのが気がかりでしたがけっこう沖の方まで行くことができました。1400円の潮干狩り場入場券を購入し、岸近くではアサリなどの稚

貝がいましたがその後沖の方に移動する途中、バカ貝の稚貝はけっこういるものの、アサリは殆どいませんでした。前回あんなにいたのにどこに行ってしまったのでしょうか。岸から600mくらいの北側にもシオフキは見られたもののアサリは殆どなし。その南側のコアマモの生えているところまで行ったところ、アマモの生えている間の露地にある程度いましたが、前回のように熊手一かきで10個にはほど遠く、二かきくらいで一個という程度。せつかくとれたアサリの中に死んでいるものが通例よりも多かったこと、砂抜きのため塩水につけたところ粘液の放出が多かったことなどが気になります。ただ味は良好でした。

北の金田海岸も去年と同じく自生のアサリはあまりいないようです。むしろ前回2006年の大発生でアサリに何がよかったのか探求するのが良さそうです。 亀田

## 2.3 出前講座

### 2.3.1 「列車トイレー日本の列車トイレの変遷」し尿・下水研究会 2009.6.18

- 1、主催 尿尿・下水文化研究会
- 2、テーマ 日本の列車トイレの変遷 清水 洽
  - ①鉄道の開設時
  - ②垂れ流し列車トイレの問題
  - ③垂れ流しトイレの改善
  - ④垂れ流しトイレの撤廃
  - ⑤汚物処理の方法
- 3、日時 2009.6.18 (木)
- 4、場所 株式会社 TOTO 新宿本社

### 2.3.2 「将来の下水道展望」三浦半島地域下水道連絡協議会 2010.1.15 (金)

- 1、主催 三浦半島地域下水道連絡協議会 (市町)
- 2、テーマ 将来(長期)の下水道展望 亀田泰武
  - ①、事業運営 対世論、民活、危機管理など
  - ②、市民との協働
  - ③、環境 地球環境と地域環境
  - ④、社会資本整備総合交付金制度
- 3、日時 2010/1/15 (金)
- 4、場所 三浦市南下浦市民センター講堂

### **2.3.3 「下水道と合併浄化槽」荒川左岸南部実務者研修会 2010.1.21（木）**

- 1, 主催 荒川左岸南部実務者研修会（市町）
- 2, テーマ 下水道と合併処理浄化槽 亀田泰武
  - ① 下水道と合併処理浄化槽
  - ② 社会資本整備総合交付金制度
- 3, 日時 2010/1/21（木）
- 4, 場所 上尾市文化センター

### **3. 平成21年度末会員等の現況**

平成22年3月31日現在の会員数は次の通り

- |             |                      |
|-------------|----------------------|
| (1) 正会員（実数） | 73名（前年度末より7名入会4名退会で） |
| (2) 賛助会員    | 6社（前年度末より不変）         |

### **4. 平成21年度決算報告の概要**

—平成22年6月25日開催の総会資料の通り—

- 4.1 事業報告
- 4.2 収支計算書
- 4.3 貸借対照表

資料編（平成 22 年 6 月 25 日通常総会資料）

1. 会員数

正会員 76名 (目標 80名)

賛助会員 6名 (目標 8名)

2. 総会及び理事会

総会 (平成21年6月25日)

理事会 (平成21年6月5日、平成22年2月18日)

3. 事業実績

(1) 研究集会及びシンポジウムの開催

- |                                |             |          |
|--------------------------------|-------------|----------|
| ①テーマ「排水の消毒」                    | (H21.6.9)   |          |
| 講師：橋本敏一、代田吉岳、河合利泰              |             | 参加者 50名  |
| ②テーマ「下水道の海外展開キーポイント」           | (H21.7.7)   |          |
| 講師：佐伯謹吾、伊藤真実、竹内正善              |             | 参加者 51名  |
| ③テーマ「下水道と地域社会～地域とつながれ下水道～」     | (H21.9.3)   |          |
| 講師：立本英機、奥原喬夫、中島克元、美野原弥恵        |             | 参加者 100名 |
| 関西の3NPO法人とジョイントで開催。(大阪市下水道科学館) |             |          |
| ④テーマ「湖沼水質の保全と下水道一諏訪湖の事例より」     | (H21.10.20) |          |
| 講師：青柳光昭、花里孝幸、福島武彦              |             | 参加者 40名  |
| ⑤テーマ「新下水収集システムを考える」            | (H22.1.22)  |          |
| 講師：長谷川健司、伊藤岩雄、西村秀士             |             | 参加者 62名  |

(2) 見学会の開催

- |           |            |        |
|-----------|------------|--------|
| ①盤洲干潟の見学会 | (H21.7.25) | 参加者 9名 |
|-----------|------------|--------|

(3) 出前講座 (講師派遣)

- |                              |            |  |
|------------------------------|------------|--|
| ①「列車トイレ—日本の列車トイレの変遷」し尿・下水研究会 | (H21.5.18) |  |
| 講師：清水 洽                      |            |  |
| ②「将来の下水道展望」三浦半島地域下水道連絡協議会    | (H22.1.15) |  |
| 講師：亀田泰武                      |            |  |
| ③「下水道と合併浄化槽」荒川左岸南部実務者研修会     | (H22.1.21) |  |

講師：亀田泰武

(4) 「何でも相談室」

電子メールによる問い合わせ 1 件

(5) 「21世紀水倶楽部だより」

第6～11号

(6) 「思い出の記」

運営委員会の設置……原稿募集、執筆依頼、資料収集  
内容拡充

(7) 「思い出の写真館」(新規)

残しておきたい写真、懐かしい写真、……軌跡のアルバム  
広く呼びかけ。

(8) ホームページの充実

①都市排水・生活排水処理の実態・課題を考える。(基礎知識の普及チーム)

「事業仕分け」を踏まえた下水道の役割、機能の正しい理解のために

②下水道なんでも

\* 「列車とトイレ」(ベルギー、オランダ編)

\* 「列車とトイレ」(インド編)

\* 「列車とトイレ」(モロッコ編)

\* 「列車とトイレ」(トイレの製作・五光製作所)

\* 「列車とトイレ」(中国編)

\* 「列車とトイレ」(チュニジア編)

\* 水道水と塩素

平成21年度 特定非営利活動に係る事業の会計 収支計算書

平成21年04月01日～平成22年03月31日

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

(円)

科 目	金 額		
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
会費収入			
【正会員会費収入】		456,000	
【賛助会員会費収入】		300,000	
会費収入計			756,000
事業収入			
【下水管水理学収入】		26,000	
【湖の保全収入】		12,000	
【海外展開収入】		46,000	
事業収入計			84,000
寄付金収入			
【寄付金収入】		41,118	
寄付金収入計			41,118
雑収入			
【受取利息】		886	
【雑収入】		12,000	
雑収入計			12,886
経常収入合計			894,004
II 経常支出の部			
事業費			
【下水管水理学支出】			
印刷製本費	186,879		
会場費	3,700		
講師謝金	30,000		
講師交通費	9,000		
【下水管水理学支出】計		229,579	
【排水の消毒支出】			
会場費	3,700		
講師謝金	30,000		
講師交通費	30,160		
雑費	6,000		
【排水の消毒支出】計		69,860	
【湖の保全支出】			
印刷製本費	29,505		
会場費	3,700		
講師謝金	30,000		
講師交通費	39,600		
【湖の保全支出】計		102,805	

平成21年度 特定非営利活動に係る事業の会計 収支計算書

平成21年04月01日～平成22年03月31日

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

(円)

科 目	金 額		
<b>【地域住民と協働支出】</b>			
旅費交通費	89,380		
通信運搬費	840		
印刷製本費	27,720		
講師謝金	45,000		
講師交通費	93,360		
雑費	840		
<b>【地域住民と協働支出】計</b>		257,140	
<b>【海外展開支出】</b>			
印刷製本費	19,383		
会場費	4,440		
講師謝金	30,000		
講師交通費	9,000		
<b>【海外展開支出】計</b>		62,823	
<b>【環境講座支出】</b>			
講師謝金	10,000		
講師交通費	3,000		
<b>【環境講座支出】計</b>		13,000	
事業費計			735,207
管理費			
<b>【管理費】</b>			
会議費	5,275		
通信運搬費	42,900		
印刷製本費	132,776		
リース料	64,372		
諸会費	1,312		
支払手数料	105		
雑費	12,630		
<b>【管理費】計</b>		259,370	
<b>【雑損失】</b>		30,000	
管理費計			289,370
経常支出合計			1,024,577
経常収支差額			-130,573
Ⅲその他資金収入の部			
その他資金収入の部合計			0
Ⅳその他資金支出の部			
その他資金支出の部合計			0
その他収支差額			0
当期収支差額			-130,573
前期繰越収支差額			1,709,520
次期繰越収支差額			1,578,947

平成21年度 特定非営利活動に係る事業の会計 収支計算書

平成21年04月01日～平成22年03月31日

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

(円)

科 目	金 額		
(正味財産増減の部)			
V 正味財産増加の部			
資産増加額			
【当期収支差額】		0	
資産増加額合計			0
正味財産増加額計			0
VI 正味財産減少の部			
資産減少額			
【当期収支差額】		130,573	
資産減少額合計			130,573
正味財産減少額合計			130,573
当期正味財産増減額			-130,573
前期繰越正味財産額			1,709,520
期末正味財産合計額			1,578,947

**平成21年度 貸借対照表 (平成22年3月31日現在)**  
 特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 特定非営利活動に係る事業の会計

(円)

資産の部		負債の部	
流動資産		流動負債	
現金	95,946	前受金	62,000
普通預金	495,850	流動負債合計	62,000
ゆうちょ銀行（普通預金）	836,651	固定負債	
ゆうちょ銀行（振替口座）	200,500	固定負債合計	0
未収金	12,000	負債合計	62,000
流動資産合計	1,640,947	正味財産の部	
固定資産		前期繰越正味財産	1,709,520
固定資産合計	0	当期正味財産増減	-130,573
		正味財産合計	1,578,947
資産合計	1,640,947	負債及び正味財産合計	1,640,947

## 平成22年度 特定非営利活動にかかる事業会計収支予算書

平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

(単位:円)

科 目	金 額	
I 収入の部		
1 会費収入		
正会員80名	480,000	
賛助会員8名	400,000	880,000
2 事業収入		
3 補助金等収入		
4 寄附金収入		
5 その他収入		
6 その他の事業会計からの繰入		
当期収入合計		880,000
II 支出の部		
1 事業費		
通信運搬費	80,000	
会場費	300,000	
旅費交通費	200,000	
講師謝金	100,000	
雑費	20,000	
		700,000
2 管理費		
什器備品費	10,000	
事務用品費	20,000	
消耗品費	20,000	
通信運搬費	20,000	
印刷製本費	70,000	
雑費	10,000	
		150,000
3 予備費		
予備費		30,000
当期支出合計		880,000
当期収支差額		0
前期繰越収支差額		1,578,947
次期繰越収支差額		1,578,947

# 平成22年度 事業計画書

平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで

特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部

## 1 事業実施の方針

研究開発事業では、「エアレーション制限下での窒素除去」「多摩川の水環境と下水道」「地球温暖化ガスコントロール」をテーマにしたセミナー等を開催し、今後の進むべき方向を討議し提言する。

普及啓発事業では、「ディスポージャーの普及には何が必要か」「外食産業における水を考える」「キッチンから考える水の循環」等の活動を実施する。引き続きHPの充実を図るとともに、「何でも相談室」の活用促進を図る。

また、「市民向け出前講座」を活用し普及活動を促進する。

## 2 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	支出見込み額(千円)
研究開発事業	セミナー開催 ①窒素除去 ②多摩川と下水道 ③地球温暖化対策	4月から 3月まで	都内会場	20名	全国 不特定多数	300
普及啓発事業	講習会 ①ディスポージャーの普及 ②外食産業と水 ③キッチンと水循環	4月から 3月まで	都内会場など	20名	全国 不特定多数	300
普及啓発事業	①HPの充実 ②「思い出の記」 ③写真館	4月から 3月まで	法人事務所	4名	全国 不特定多数	50
普及啓発事業	①出前講座 ②「何でも相談室」の活用	4月から 3月まで	法人事務所	6名	全国 不特定多数	50

### (2) その他の事業

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	支出見込み額(千円)
実施計画なし					

定款 新旧対照表

H22.6.25

新	旧
第3章 役員、顧問及び名誉会員	第3章 役員及び顧問
<p>第20条 (顧問及び名誉会員)</p> <p>この法人に、理事会の推薦により顧問及び名誉会員をおくことができる。</p> <p>2 顧問は、理事長の諮問に応じて助言をする。</p> <p>3 高齢の名誉会員の年会費を免除することができる。</p> <p>4 定数は、特に定めない。</p>	<p>第20条 (顧問)</p> <p>この法人に、理事会の推薦により顧問をおくことができる。</p> <p>2 顧問は、理事長の諮問に応じて助言をする。</p> <p>3 定数は、特に定めない。</p>

(参考)

(旧)

(顧問)

第20条 この法人に、理事会の推薦により顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、理事長の諮問に応じて助言する。
- 3 定数は、定めない。

(新)

(顧問及び名誉会員)

第20条 この法人に、理事会の推薦により顧問及び名誉会員を置くことができる。

- 2 顧問は、理事長の諮問に応じて助言する。
- 3 高齢の名誉会員の年会費を免除することができる。
- 4 定数は、定めない。